

# 心のケア必要

## AMDA 600人を診療 帰国報告

### トルコ大地震

トルコ北西部で発生した大地震の被災地救援のため、国際医療ボランティア・AMDAが派遣していた

被災者の治療にあたるAMDASTAFFは8月下旬、トルコ北西部マシエティエ村(AMDA提供)

救援チームのメンバーが十三日、岡山市榴津のAMDA本部で帰国会見。「震災のショックで精神的不安定さを訴える患者が多い。阪神・淡路大震災のケースと同様、心のケアが必要」などと報告した。

一次チームとして先月二十日に出発した東京都在住の医師上田明彦さん(三)、廿日市市の調整員大塚豊彦さん(三)と、二次チームに参加した衆院議員で、岡山県灘崎町の医師中桐伸五さん(五)が出席した。



上田さんらは、AMDA派遣チームが震源地イズミット近くのマシエティエ村(人口約千人)で約六百人を診療し、地震の被害状況などを調査した救援活動の内容を報告。上田さんは「地震による外傷の治療は落ち着き、緊急救援という目的は果たせた。今後は、冬に向け被災者の住宅と衣服の確保が課題だ」と指摘した。

AMDAは延べ十四人の救援スタッフを二次に分けて派遣。スタッフは十一日までに医療や今後の国際協力の調査などの活動を終え、全員帰国した。